

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人と人とのふれあいを大切に」ということで、地域の方々とのつながりを大切にしながら、生活を送れるよう支援できるような理念をつくりあげている。	○	地域での生活を送っていく中で、生活感を感じられる場にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、職員全員で声に出して復唱し、理念を意識しながら、利用者への関わりを行っている。	○	日々、声に出して言うことにより、理念実現・実行への意識が強くなるようにしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方の面会時、地域の方の訪問時などに、会話の中で、理念を伝え、少しでも理解していただけるよう取り組んでいる。	○	施設から、外部地域への方に対しての説明は、積極的には行えておらず、地域の集まり等に参加し伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者の方と散歩や買い物に出かけた時には、積極的に地域の方と挨拶し、会話がもてるようにしている。	○	近所の方とのふれあいは少なく、もっと機会を増やしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会等への参加は、経営者が行っている。地域の小学生の訪問や、ボランティアは定期的に来ていただき、交流ができています。	○	小学生の訪問やボランティアの方が来てくださることを利用者の方は、とても楽しみにされているため、続けて交流を図れるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方に役立つ取り組みは行えていない。見学や研修の方は、受け入れている。	○	過去には実習生の受け入れを行っていたが、現在は休止中である。施設間の実習の受け入れはしている。パンフレット等に相談・受け入れを記載したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は報告を行い、改善できるよう話し合いを持ち、取り組んでいる。改善できてないこともある。	○	職員全員、結果は見ているが、改善計画について検討中である。必要性を感じている職員はいるが、全員が意義を理解しているか不明である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のサービスの状況説明や評価結果を伝え、意見をいただけるようにしている。	○	会議に参加された方から、できるだけ多くの意見をいただけるよう、取り組んでいく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所としては連携、関係作りを行っていると思う。ただ、地域密着型のサービスとしてはどうかは分からない。	○	関係づくりは積極的に行っている。意見等をしっかり聴き、サービスの向上にむすびつけている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所では、勉強会を行っておらず、職員は、あまり理解できていないと思う。	○	勉強会を行い、制度に対する理解が必要だと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待防止のための勉強、カンファレンスを行い、防止に努めている。	○	引き続き、防止のための勉強会やカンファレンスを行い、虐待の防止の徹底に努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>契約時、解約時以外でも、話をよく聞いて対応し、説明している。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>利用者の方が意見を出しやすいような職員の関わり方、雰囲気作りをしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>各ユニットの責任者が面会時挨拶を行い報告をしている。(施設長は体調に変化があった入居者の家族に対して当日に必ず連絡をしている。)</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>意見を言ってもらえる。ご家族の方は少なく、もっと思いを話しやすい、職員の関わり方、雰囲気作りの工夫をしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	<p>今後は運営者とも話し合いの場面を作っていきたい。管理者と職員との話し合いはできているが、結果が出ていないことがある。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>時間を確保し、話し合いが取れるように勤務体制を作っていきたい。職員同士での話し合いで対応している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設側の都合での職員の異動が多いように思う。引き継ぎの期間は、あまりない。利用者には、できるだけ言葉かけを多くしたり、付き添い、不安な気持ちを少なくできるように関わっている。	○	施設側の都合でなく、利用者の気持ちをできるだけ重視した、人事異動を行っていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	少しずつだが、研修を受講できるようにしている。	○	研修にもっと多く行けるための、人員確保をしたい。研修の内容を職員に報告し、全員で学んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の施設へ訪問し、見学させていただき、感想等をお互いに交換し、サービス向上への取り組みを少しだけ行っている。	○	定期的に他施設との交流を図る機会を作り、多くの職員が参加し、勉強していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的には、職員のストレス軽減に向けた取り組みは、行えていない。数か月に一度、親睦の場を作っている。(ボーリング大会) 個々には、できるだけ話を聞くように心がけている。	○	今後も継続し、職員のストレス軽減に努めていきたい。(個々で解決している方が大半)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心の持てる職場環境・条件には、なっていない。	○	資格取得、研修実施日、内容等は、職員に周知している。積極的に自分をアピールできる雰囲気作りを行い、少しでも向上心を持って働けるような職場作りを目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談が可能な方には、ご本人と話し、要望の把握に努めたい。	○ できるだけ、ご本人に会い、話を聴く回数を増やしていき、状態をしっかりと把握していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	できるだけ時間を作り、ご家族の方の思い・要望を伺っている。	○ ご家族の方が、話しやすい雰囲気作りを心がけている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、こちらで対応できること以外は、必要に応じて、他のサービス機関に相談し、対応している。	○ 判断能力を身につけるため、研修等でスキルアップしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学が可能な方は、事前に来ていただき、施設の様子・雰囲気を見てもらっている。	○ 他の利用者とのかかわりを大切にしている。 (他者との信頼関係を築く)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方から、いろいろと教えていただけるような場面作り、言葉がけをしている。ご本人の思いを話していただけるよう、また、しっかり受けとめられるよう、普段より信頼関係を築く努力をしている。	○ より一層、入居者との交わりが持てるように環境を整備していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が面会に来られた時には、利用者の方の様子を伝えると共に、ご家族の方の思い・話をゆっくりと伺い、少しでも、気持ちを軽くしていただけるような、言葉かけができるように努めている。	○	業務の中、なかなか、ゆっくりと家族の方と話をする時間がとれないため、他職員の協力を得ながら、時間を確保していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方が面会がないと、怒ったり、悲しんでいる時には、ご家族の方に入居者の状況を伝え、ご本人には近いうちに面会に来られることを言葉かけをしている。	○	行事がある時に、ご家族の方を誘ってもあまり来ていただけない。ご家族とのふれあいが持てるような、取り込みの工夫が必要である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人より希望があれば、ご家族の協力を得ながら、馴染みの美容院へ行ったり、親せきの方・友達に会ったり、買い物等へ行っている。	○	ご家族の方の協力を得ることへの関わりと、施設行事の中での買い物、ドライブ等で馴染みの人・場と触れあえるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良く、助け合いができるような場面作りを、職員間で話し合ったり、個々に話を伺いながら行っている。	○	ソファにて穏かな時間を、入居者同士が仲良く過ごされるような雰囲気作りをしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了し、他施設へ変わられた方の様子を伺いに訪問している。(個人的に)ご家族の方とは、あまり交流は持っていない。	○	サービス終了後も、関係を断ち切ることなく、継続的に交流を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、個々に思いや希望をできるだけ聞きだすことや、実現に向けて、職員ができることは何か等を、職員間で話し合いながら行っている。	○ 自分から意思表示をしていただけない方は、ご家族の方に伺ったり、いろいろな場面を設け、表情等を見ながら、本人がしたいことは何かを探していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族より、話を聞かせていただいている。また、生活していく中で、本人より聞かせてもらったり、ご家族の方の面会時に尋ねている。	○ 面会時に現状報告し、また、情報を得ている。生活歴を把握するのも困難になっている。家族の方も記憶が一定でないといわれる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムを尊重している。また、心身状態の把握に努め、職員間で情報を共有しており、日々の生活の中で「できることさがし」を少しずつ行い、称賛している。	○ バイタル・表情・行動等に注意を払い、小さな変化にも早く気づき、対応できるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に、ご家族の方の意見を聞いている。職員で意見を出し合いながら、介護計画を作っている。ご本人からの意見や思いは訪ねているが、あまり答えは返ってこない。	○ 家族や本人から、もっと意見を出していただけるよう、コミュニケーションをとっている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の方の状態・体調変化時には、随時、話し合いをもち、介護計画の見直しを行っている。	○ 家族との話の中で、介護計画を作成している。家族に対して、面会時等を利用し、要望を聞き、反映できるようにしている。本人から常日頃を生活状況で判断している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に状況を記録し、情報の共有もできている。暮らしの様子、体調変化等も記録できている。介護計画も毎日行えたか、また、何故行えなかったか等を記録し、月に1回評価して、次の計画に活かしている。	○	記録内容に個人差があり、レベルアップを図るようにしたい。(勉強会を行う)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療を受けながら、グループホームで生活が送れるように支援している。	○	急変時是对応を早くし、今後も継続していきたい。グループホームで、安心して生活ができるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事を行う時に、ボランティアの方々に来ていただいたり、定期的に地域の小学校が「ふれあい学習」等で来ていただき、交流を図っている。消防は年1回、指導のため、来てもらっている。	○	ボランティアの方や小学生が来られる時は、入居者はとても喜ばれており、引き続き、交流を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居してからはグループホーム対応のため難しいが、家族からの要望での対応はできている。	○	散髪など、利用者の要望で実施している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っているが、現在は家族からの要望はない。	○	運営推進会議に出席してもらい、意見を参考にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ご本人ご家族の希望を伺い、希望に添った支援をしている。受診前に、状態をしっかりと伝えたり、受診結果を伺い、情報を共有している。	○	引き続き、本人、ご家族の納得が得られる支援をしていきたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診を受け、治療の指示をいただいている。対処方法や助言もいただいている。	○	今後も、医療機関との連携を密にしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者のことをよく知っている看護職員がおり、気軽に相談にのっていただき、助言をもらい、介護に活かしている。	○	看護職員から、きめ細かい良い助言をいただけるので、とても介護をしていく中で役立っている。引き続き、いろいろなことを吸収していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、病院に本人の状態を詳しく書いた用紙を渡したり、話をさせていただいている。また、見舞いに行き、元気になっていただけるよう言葉かけをしたり、看護師の方に状態を伺っている。	○	引き続き、病院関係者との情報交換を行ってきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化したときには、どういった対応をするかということ、書面で書いていただいている。	○	元気なときに話し合いを行うのは難しいが、面会時や体調が悪い時に話し合うようにしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の方と話をしながら、私達のできることを探し、少しでも穏やかな日々が送れるよう、支援している。	○	医療チームとの支援方法の確認をしっかりと行っていきたい。医療連携マニュアル等で対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、移り住む先の施設の方と、現在の生活状況を詳しく説明している。また、書面でも渡している。	○	気持ちのこもった情報提供をしていきたい。(詳しい情報提供、サマリー作りを行っている。)居所が変更する時、前後して関係者に情報提供を積極的に行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カンファレンス等で、接し方、言葉使いを勉強しているが、なかなかそれを実行できていない職員もいる。	○	何度も勉強会、話し合いの場を作り、職員同士がお互いに向上できるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の状態にあわせて、ご自分で決められるような言葉かけ、場面を多く作るよう、心がけて接している。	○	個々に合った対応はできている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することもあるが、できる限り、入居者の方のペースに合わせて生活していただけるように応援している。ご本人が「今は、○○したい」と思っていることを聴き出したり、表情で読みとるよう努力している。	○	1日の流れが、ある程度施設では決まっており、その中でできるだけ、その方のペースに合わせた生活を送っていただけるよう、取り組んでいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装は、できるだけ、ご本人に選んでいただいている。美容院も、家族の協力を得られる方には、行きつけの美容院へ行っていただいたり、施設に来てもらっている。	○	3か月に一度、施設へ理容師の方が来てくださり、散髪を行っているが、髪型がみんな同じような感じなので、事前にご本人より好みの髪型を伺い、理容師の方に伝えたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で作られて配られるため、一人ひとりの好みや、力は活かされていません。時々、職員が家より旬の物を採って来て、入居者の方と一緒に調理し、全員で食べている。後片付けは、入居者の方と共に行っている。	○	メニューを考えたり、買い物、調理等、利用者と一緒に楽しく行えるよう取り組みたい。(月々週に1回、1品作りからでも行っていきたい。)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつ等は、家族の協力を得、持ってきていただいている。お酒・たばこは、施設では禁止である。	○	個々に持ってきていただき、施設側で預かり、ご本人が希望された時、食べていただいている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握に努め、声かけ誘導を行っている。家ではオムツ対応されていた方でも、状態を見ながら、トイレ誘導を行い、リハビリパンツ、または、布パンツ使用へととなっている。	○	職員間で誘導できたこと・できなかったこと等を、随時、話し合いながら支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日、時間は、決められているが、ご本人が拒否された時は、翌日行ったり、異性を拒否される方には、同性の職員が介護にあたっています。朝・夜間は、職員の勤務の都合で行えていない。	○	できるだけ、ご本人の希望する時間に、入浴していただけるよう取り組みたい。職員の勤務時間の変更も検討したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できるだけ、ご本人の意に添うように、休息をとっていただいている。夜間の様子・体調等にも注意を払い、支援している。	○	常に状態の把握に努め、適切な対応ができている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方に合った楽しみごとや役割を見つけ、行っている。ご本人より意思表示があまりない方でも、いろいろと試みながら、よい表情が出ることを探しながら取り組んでいる。	○	もっと利用者、一人ひとりの楽しみごとを引き出していけるよう、働きかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>施設的には、お金の所持は廃止しているが、ご本人もお金を持っていたい、ご家族の方も「なくなっても構いません」と了承している方には、待っていただいている。家族の方より、今、いくら持っています等の情報はもらっており、職員より家族に、○○を買った等の報告は行っている。</p>	○	<p>お金を持っていないと不安だとの声も、ご本人より聞かれることがあるが、ご自分での管理も難しく、職員側からの管理もでき難い状況です、買い物に行く時、職員からお金を渡して、ご自分で支払いをすることはできると思う。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>本人の希望を聞き、ご家族が協力してくださる方は、外出をされている。それ以外の方は、散歩やドライブ等に出かけている。</p>	○	<p>気持のいい時の散歩は、とても喜ばれ、四季の草花風に感動され、とてもいい表情をされている。日常的に、今よりもっと多く外出の機会を作るよう取り組んでいきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者の思いを聞いてはいるが、個別に遠くへ外出するということは、できていない。</p>	○	<p>家族の協力で実施できている。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>前もって、家族より了解をもらっている方に関しては、電話を利用していただいている。手紙は、ご本人より希望があれば、代筆し投稿している。</p>	○	<p>電話の場合、かけたことを忘れ、頻回にかけたり、家族のふりをし利用者の方と話をし、落ちついていただいている。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会に来られた時には、「おいでいただき、ありがとうございます」との気持ちを込め、挨拶をしている。ゆっくりと利用者の方と過ごしていただくスペースはなく、居室にて話してもらっている。お茶やコーヒー等も、できるだけ出しているが、忙しい時には出すことができない。</p>	○	<p>落ち着いて、ゆっくり過ごせるスペースを作りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけないことは、職員全員周知し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	○ 定期的に勉強会を開いたり、利用者の状態の変化時には、どのようにすれば安全に拘束なく対応できるかを、話し合っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の前は国道が通っており、交通量も多く、危険である。外出願望者も多く、目が届かないと言うこともあり、鍵をかけている。外出願望が出てきた場合は行動を一緒にし、話を伺うなどして対応したり、一緒に外出し、気分転換を図っている。	○ 鍵をかけないでいるということは、無理だと思う。利用者の外出したいと思う気持ちを優先し、できるだけ、外へ出る機会を多く、持てるようにしたい。個人の状態の把握に努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状態把握に注意を払い、日中、ホールには必ず全体を見守るよう職員を配置している。夜勤者は定時見回りを行い、入居者の状態にあわせ、随時見守りや付き添いを行っている。	○ 徘徊の方の安全確保のため、付き添い、見守り、誘導を行っているが、職員の少ない夜間は、その方一人に関わって折れず、職員が心身共に疲れが出ている。今の状態が改善できるように取り組んでいきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、ハサミ等は、職員の方で管理している。洗剤等は利用者の方の状況を見ながらだしたり、直したりしているが、いろいろな方がおられるため、できるだけ目のつかない所に収納している。	○ 職員が入居者の状況に合わせ、方法を考え、対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止のため、スベリ止めマットで使用したり、ベット横にたたみ、カーペットを敷いたり、見守りを行っている。ガスの元栓を閉めることを徹底している。ヒヤリハットの場合には、職員で話し合いをし、再発防止に取り組んでいる。	○ 事故防止のための勉強会・話し合いを行い、事故を未然に防げるようにしたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会をカンファレンスで行っている。夜間、緊急時のマニュアルを作り、周知している。隣に協力病院があるため、すぐに対応していただいている。	○ 応急手当等、勉強しているが、実際には行っておらず、何度も訓練し、身につけられるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署の方の協力のもと、避難訓練が行われている。また、運営推進会議で協力をお願いしている。協力病院より協力をお願いしている。	○	訓練を年1回と言わず、何度も訓練し、身につけられるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況変化が見られれば、面会時または電話にて、これから起こり得るリスクについて話し、ご意見を伺いながら対応していく。	○	転倒を気にされ、動きを制限される家族の方には、十分な説明をし、理解をしてもらっている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを行い、顔色、表情等にも常に注意を払い、早期に気づくことができるよう努め、状態を職員内で共有し、対応している。	○	職員の利用者に対する観察力・気づく力を養えるよう、学習していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人の方が飲まれている薬の種類が多いため、全ての薬に対して把握はできていないが、大事な薬に対しては理解している。薬の処方箋はファイルしており、分からない時はいつでも見て確認できるようにしている。薬の服薬確認も行っている。	○	全ての職員が薬の内容を把握できるよう、定期的に勉強会を行いたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤等も服用しているが、水分補給や運動、お腹を温めたり、軽くなでる等の対応をし、できるだけ、自然排便できるように関わっている。	○	個々の状態にあわせ取り組み、結果を話し合いながら、少しでもスムーズに排便できるよう関わっていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は、口腔ケアの大切さは理解している。自分のできる方への助言、確認等は、あまり行っていない。昼食前には、口腔体験を行っている。	○	正しい口腔ケアの実践へ向けての学習を定期的に行い、個々の力の状態に応じた介助を行っていききたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録しており、状況により、水分摂取量も把握している。摂取量が減ってきた場合、食事の形態を変えたり、ご家族の協力を得て、好物を持ってきていただいている。	○	その方に合った量を把握し、できる限り、気持ちよく食事ができるようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する勉強会は行っており、マニュアルも作成している。インフルエンザにおいては、予防摂取を受けたり、マスクの着用、他の感染症に対しても、こまめに手洗い、消毒等を行っている。	○	感染症に対する勉強会を定期的に行い、繰り返し学ぶことによって、的確な対応ができるようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきん等は、夜勤者が毎晩、漂白を行っている。	○	台所まわり、食器棚、冷蔵庫の掃除をこまめに行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	病院のような建物であり、玄関もデイケアと共同で、車の出入りが多いため、思うようにはできない。タンブラーに花を置く程度である。	○	植木鉢等を置き、明るい環境作りを目指していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面所や台所は、車椅子利用者が対応できる造りではなく、使用しづらい。浴室も狭く、浴槽は深く利用しにくい。ホールも狭く、車椅子の移動時は、注意が必要である。ホールの机に季節の花等を飾っているが、異食される方もあり、いつもというわけにはいかない。	○	早く車椅子対応の洗面所にしてもらうよう訴えていく。ゆっくりと、くつろげるスペースの確保したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中はスペースが狭く、一人になれるような場所はない。一人になれるのは居室のみで、気の合った利用者同士は、居室にて会話されている。	○	座る場所が固定化し、トラブルになることがある。解決方法を検討中である。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方の協力を得ながら、馴染みの物をもってきていただくようお願いはしているが、あまり持ってきてはいただいている。何人かの方は、ご自分で使われていた裁縫道具や編物道具・写真・本等を持ってきていただいている。	○	一人ひとりの状態にあわせて、心落ち着けるような物は何かを考え、用意したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は一人ひとりの体調やご本人に尋ねながら、温度設定をこまめに行っている。排泄の臭いも、換気をこまめに行ったり、消臭剤を利用している。	○	換気に注意を払っている。施設全体として、芳香剤などの設置を検討中である。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体から、精神的な状態に合わせて、安全に生活できるよう居室に敷物をしたり、タンスの取っ手を布で巻いたりしている。	○	身体能力の合った安全環境作りを、個々に対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況にあわせて、混乱が回避できるよう状況把握に努め、職員で話し合いを持ちながら、ご本人の力を活かした生活が送れるよう努めている。	○	混乱、失敗があったときは職員が話し合い、統一したケアができるようにしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りはゆっくりできるスペースもなく、ベランダも使用不可であり、外回りの空間利用は行っていない。	○	小さなスペースでもいいので、花作り、野菜作りができるような土地を確保したい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は、日ごろからあまり会話が難しい入居者の方であっても、顔を合わせるだけで安心感が生まれるように努力をしています。(コミュニケーションがうまく取れない方でも、日ごろからやりとりを積み重ねることによって、新しい関係ができることに期待、自信を持ってかかわる)その人の笑顔や心が和む瞬間を捉え、そこに働きかけるようにしています。私たちは、家族の方から大事な命を安心して任せられる施設とっていただけるグループホームを目指しています。